

反改憲運動

通信 第6期

2011.3.2

No.

19

1部 200円

〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町 1-21-7 静和ビル 2A
淡路町事務所気付 Tel. & Fax. : 03-3254-5460
E-Mail : han-kaiken-editor@alt-movements.org
Website : <http://www.alt-movements.org/han-kaiken/>
年間定期購読料 4,000円 (2010. 6~2011. 5)
郵便振替 00190-7-11558 「反改憲」運動情報通信

八百長(密約)外交は戦後日本国家のつくった「伝統」である ——本当に批判されるべき「八百長」とは何か

2月の始まりとともにマスコミは、大相撲のいわゆる八百長問題で大騒ぎである。「競技・試合などで、勝敗を前もって打ちあわせておいて、表面だけ争っているように見せかけること」。手元の辞典にはこうある。

「野球賭博」の立件で調査をしていた警察が「八百長」のためのやりとりをしている「メール」を発見、それが公表され、今まで相撲協会が否定し続けてきた八百長の物的な証拠が示されての大騒ぎである。協会の責任者は以前からの伝統化された八百長という点は否定しつつも、メールで名前があがった三力士が認めた事実をも公開してみせた。

大騒ぎの報道の流れは、八百長は実は公然の事実であり、ごく一部の力士の問題ではなく「国技」である相撲協会の体質(システム)そのものであるという事実を、あらためてクローズアップしてみせた。この点は、「週刊誌」メディアに一番クッキリと表現された。いくつか紹介しよう。「なぜ八百長がここまで協会に巣くったか」というと、根が深いからです。私は50年以上、相撲記者をしています、その昔から八百長はありました」、こう語っている相撲ジャーナリストは、土俵の鬼といわれた横綱が「人情」から敗けてやたった「人情相撲」のエピソードを紹介した後、さらにこう語っている。

「そこまでは『人情相撲』ですが、やがてタニマチ筋から鼻根(ひいき)にしている力士のために知らぬ間に相手に頼んでいた、ということもありました。大事な一番の前に兄弟子から『作戦を授ける』と教えられその通りにやったら勝ったわけです。大喜びしていると、次の場所で兄弟子から『今度は負けてやってくれ』と頼まれて初めて、自分が八百長の片棒をかつがされていることを知る。そもそも八百長は、力士が相手の支度部屋を訪れて頼むことから『コンチハ相撲』と呼ばれていました。今はそれが『メール相撲』になったんですね」(『週刊朝日』3月4日号)。

『週刊文春』(2月24号)は、協会は「無気力相撲」問題に対

処するため72年の初場所に、上位の力士相互の対戦を早くし、星取りの調節のための八百長をできないようにした「前代未聞」の試みをしたことがあった事実をレポートしている。この場所は全勝優勝をささやかれていた一人横綱はボロ負け、なんと平幕力士が優勝史上最低の勝ち星で優勝した。その結果、この試みはこの一場所だけで終わりということになってしまったのだという。「結局、八百長は根絶されることなく、その存在を認めようとしめない協会の姿勢もそのまま継続された」とレポートしているこの記事の結びはこうだ。

『「ガチンコ本場所」が失敗に終わったトラウマを抱える相撲協会が、八百長問題にケリをつけるのは、至難の業という……」

『週刊新潮』(2月17日)には、以下のような相撲担当記者の声が紹介されている。「大勢のファンを騙して、よく八百長なんてできるな、と普通の人とは思ってもみません。しかし、力士にとって八百長を演じるということは日常であり、相撲の一部。むしろ八百長を自然に演じられることは力士にとっての大事なスキルの1つ」。

だとすれば、八百長を認めた力士の「八百長は伝統文化の一つかなと思った」は、えらく正直な言葉ではないか。本当は知っていた八百長を、協会や有力力士ベッタリで報道していた八百長メディア、マスコミの八百長力士非難キャンペーンは、フザケルナである。

だいたい「国技」が八百長なら、国家のほうがかもっと八百長ではないか。この間、日米外交の「密約」はその存在があきらかにされながら(アメリカ側の資料で)また隠蔽されようとしている。相撲などのショーと違って、こちらの方は日本列島住民全体の命がかかっている大問題だ。情報をキチンと聞けという地裁判決まで出されながら、そうした動きを示さない政府、報道しないマスコミの八百長体質こそが、私たちの大問題である。(天野恵一/事務局)

▶アメリカ大使館にもの申すことへの、権力が示すあのむき出しの敵愾心はいったいどこから出てくるのか。髪の毛をわしづかみにし、街頭を引きずっていくという蛮行。人権への尊厳を100%欠落させたこのような蛮行が、なぜ可能なのか。ずっと続いてきたこれらの暴力を、その理由を、人は知るか。▶大事に暖められてきたかのような、戦後民主主義の歴史の蓄積がこの現在であることに、今さら驚きもしないか。だが、

憲 喧 嘩 愕

そのことに無関心であり続けることが生きる術であるかのように、モノ言わぬこの社会の根本的な問題には、ことあるたびに新鮮に問い返す必要がある。▶日本国家の最大のタブーが天皇制と日米安保(米軍基地)であり、平和と平等、民主主義の対極にあるこの二つがこの社会の根幹として66年あり続けた。無法警察がそれを守る。この理不尽に怒る市民が増えることなくして、社会を変える術などないのだ。(大)

WORLD PEACE NOW 3・19へ

米国の前大統領ブッシュが発動したイラク侵略戦争から8年、そして「イラクへの道」を切り開いた「9・11」とアフガン戦争から10年を迎える。全世界の民衆はイラク戦争に反対し空前の規模の反戦運動を繰り広げた。イラク攻撃直前の2月15日には全世界で1000万人を超える人びとが同日デモに立ち上がった。日本でもベトナム戦争以来の反戦運動が広がった。WORLD PEACE NOWはその中心的役割を果たした。

今では、ブッシュが戦争を始める口実とした「サダム・フセインとアルカイダとの関係」「イラクによる大量破壊兵器の保有」が何の根拠もない虚偽であったことを否定する者は、当のブッシュを含めていない。オバマ政権はイラクから全戦闘部隊を撤退させた。しかし米国が残した侵略・虐殺・人権侵害の現実はいまだに重い。イラクでは少なくとも10万人の生命が奪われ、100万人以上が生活の場を奪われ、国内・海外に追いやられる難民となった。宗派的対立がかきたてられ「爆弾テロ」などによる社会生活の危機には回復のメドがたっていない。

オバマ政権は「テロとの闘いの主戦場」と位置づけたアフガニスタンに2度にわたる兵力増派を行い、戦争は完全に泥沼と化した。「タリバン掃討」を名目にした作戦で住民の被害も激増し、戦火は隣国のパキスタンに波及している。こんな戦争をただちにやめさせ全外国軍の撤退を！

アフガニスタンとイラクの戦争に日本は全面的に協力し、自衛隊は参戦した。沖縄をはじめとした米軍基地は直接の攻撃拠点となった。沖縄の人びとの基地撤去の願いは自公政権だけではなく民主党政権によっても踏みにじられた。「日米同盟深化」を名目に、自衛隊と米軍の軍事的一体化はさらに進んでいる。「基地はいらない！」という沖縄の訴えを実現し、新防衛大綱に見られる憲法破壊・戦争への道を止めよう。

しかし菅政権は、朝鮮半島をめぐる南北の軍事的緊張の激化、「尖閣諸島」「北方諸島」問題を口実に領土ナショナリズムを煽りたて、日米韓の実戦的軍事演習を繰り広げている。韓国との「物品役務提供協定」、「邦人救出」のための自衛隊派兵、南西諸島への自衛隊配備の強化、恒常的派兵法などの動きが勢いを増している。東アジアの軍事的緊張をみずから煽りたてたこうした行為をやめさせ平和への道を国境を超えて切り開く民衆の取り組みがますます重要になっている。

WORLD PEACE NOWは3月19日に「東アジアに平和を イラク・アフガニスタンから外国軍の撤退を 沖縄に基地はいらない」をメインテーマに「武力で平和はつくれない」という訴えを強く押し出しながら「WORLD PEACE NOW 3・19」を開催する(3月19日・土曜日、代々木公園B地区ケヤキ並木 12時：ブース展示、午後1時半：トーク&ライブ、午後3時：ピースパレード)を行う。ぜひ参加を。

(国富建治／事務局)

枝川朝鮮学校の新校舎がまもなく完成します

枝川朝鮮学校(東京朝鮮第2初級学校)の新校舎がまもなく完成する。

石原慎太郎東京都知事によって校舎の敷地をめぐる裁判が起こされたのが、2003年12月。3年におよぶ裁判闘争は、実質学校側の勝利といえる内容で2007年3月に和解した。

校舎が建てられてから46年が経過し、壁が剥げ落ち、雨漏り避けのバケツが廊下や教室に並ぶ老朽化した枝川の朝鮮学校の校舎は、エンジ色に輝く新校舎に変わった。

新しい校舎を見て枝川のハラボジ・ハルモニが嬉しさに涙ぐむという話を聞く。枝川朝鮮学校に初めて訪れてから25年になる私にとってもこの新校舎は感慨深いものがある。

1941年230戸の簡易住宅が建てられ、近隣のバラックに住む朝鮮人が強制的に移住させられた枝川の周りには超高層の建物が建ち並び、今も建設ラッシュが続いている。当時の簡易住宅(長屋)は払い下げられた土地に建つ新しい家へと変わり、表札も金とか朴の名前にまじり、日本名の表札も増えた。確かに、枝川の町は昔に比べて大きく変わったように見える。しかし、路地で遊ぶ子どもたちの声や、怒鳴りあうように話す大人たちの話し声で、紛れもなくそこに下町のコリアタウンが続いていることを知らされる。

新校舎の建設は枝川の人々にとって大きな悲願であると共に、和解金1億数千万円に続く建設資金の調達は簡単なことではなかった。組織からの支援は皆無であり、旧校舎を建て

たときと同じように、新校舎建設の計画が出てから4年、総て住民や学校関係者の力によって準備しなければならなかった。内情をある程度知る私にはこの計画が、途方も無く無謀なものに見えたものである。また、現実には新校舎建設の過程は様々な対立や軋轢を生み出したことも事実である。

しかし、様々な困難を乗り越えて新校舎は竣工を迎えた。余裕はないが金銭的なめどもついた。10月に、趙博の「焼肉コンサート」、12月には、旧校舎全体を舞台にして、日本人と韓国・朝鮮人の若い芸術家たちによって「アートイン枝川」という芸術イベントが開かれた。3月5日には、こけら落としに「新井英一ライブイン枝川」が新校舎講堂で開催される。私たちがおこなう最後の新校舎建設支援イベントである。

4月に新入生を迎え、新校舎で生徒たちは新しい枝川の歴史を創り始める。私は陰から、その様子をこれからも静かに見続けていきたいと思っている。

(村田文雄／枝川朝鮮学校支援都民基金世話人)

新校舎建設支援 新井英一コンサート

●3月5日(土) 14時～16時(開場13時、13時半から生徒たちの歌と踊り) ●場所：枝川朝鮮学校講堂(江東区枝川1丁目) ●前売り3000円、当日3500円 ●主催：枝川朝鮮学校支援コンサート実行委員会(問い合わせ080-4364-5499)

河村たかし流政治の評価と批判

新しい地方政治での対抗が必要

2月6日に行われた愛知県知事選挙、名古屋市長選挙、議会解散を問う住民投票のトリプル選挙。名古屋市長として、あるいは地域政党「減税日本」の代表として旗ふりをつとめた河村たかし氏側の圧勝で決着がついた。そして、一地方の動きにとどまらず、河村氏の主張と行動は全国的な広がりをもたらしている。しかし、その主張は二つにわけてきちんと検証すべきである。

■議員報酬問題は問題提起は正しいが、手法が間違っている

まず、特権にまみれた地方議員が存在し、首長となれあいの談合政治を繰り広げており、市民から遊離しているのは事実である。報酬半減論はかなり過激であるが、「談合・なれあい議会」「議員の身分のあり方」への問題提起としては評価すべきであろう。ただし、活動についてはあくまで本来は市民が主体となるべきであった。市長がリーダーとして動くのは二元代表制度の趣旨からも疑問がある。

■減税10%は政策として愚の骨頂

次に河村氏の主張のもう一つである減税10%削減は極めて論外の主張である。いわば打ち上げ花火にすぎない。例えば、河村氏は「減税がなければ歳出削減への動機付けにならない」と主張する。しかし、名古屋市の2009年度決算を見れば、当時不交付団体という税収が極めて良好な自治体であったにもかかわらず「臨時財政対策債」を319億円も発行し

ている。臨時財政対策債は「借金のための借金」であり赤字地方債の性格を持つ。これを「借りない」ことこそ財政健全化の第一歩であることは財政学の常識である。ちなみに河村氏が編成して減税を提案した2010年度予算では、この借金は逆に増加して400億円となっている。平成23年度予算ではさらに拡大。口と実行が伴っていないのである。また、

■リーダーシップと議会不用論VS市民不在の談合議会を乗り越える議員を増やそう！

このように政権交代後の国政に絶望した市民は、もっと危険な河村市長、橋下大阪府知事の「地域政党」やみんなの党への期待を始めている。愛知県のトリプル選挙結果はその危険な流れの節目である。私たちは、こうした[リーダーシップと議会不用(縮小)論]VS[市民不在で既得権益堅持の談合議会]といった対立構造を超えた地方議会・政治のあり方を追求しないといけないと考える。私たちみどりの未来は「エコフェア宣言」という形での全国1000人のつながりを提案している。統一地方選挙に向けて、「環境、公正、市民主権」の理念を示し、賛同者のつながりを「可視化」しようとするのである。政権交代に絶望している市民、間違った情報で河村流に喝采を送っている市民に別の新しい選択肢を示せたらと思っている。

(井奥雅樹／みどりの未来運営委員)

アラブ諸国の民衆のうねりは何を問いかけているのか

当初、私も参加した2月5日の有志呼びかけによるエジプト大使館行動の報告を頼まれたのだが、状況は大きく動き、エジプトでは2月11日、遂に民衆パワーがムバラクを退陣に追い込んだ。民衆のうねりは中東、北アフリカ各国に急速に拡大し、リビアではカダフィ政権による外国人傭兵をも利用しての許し難い虐殺が続いている。

1月29日の在日エジプト人による大使館行動を皮切りに、2月5日には、有志の大使館行動と同時刻に在日エジプト人の呼びかけた恵比寿公園出発の抗議デモ。また、23日には在日リビア人呼びかけのリビア大使館行動が取り组まれ、26日には渋谷デモも行われた。

チュニジアやエジプトの革命に代表されるように、フェイスブックやツイッターなどの新メディアが重要な役割を果たし、アルジャジーラ等の衛星メディアの活躍も目を見張るものだった。日本でも、ツイッターなどの果たす役割が確実に大きくなっていると感じられる。それが直ちに街頭での行動に直結しない困難はもちろん存在するが、垣根を低くする可能性をはらんでいると思う。また、新メディアによる情報共有の深化は、同時に情報格差の拡大でもある。マスメディアをどう変えるかも課題だろう。

そして、独裁政権の崩壊と動揺は、その体制に加担し利益を得てきた者たちの責任を改めて浮き彫りにしている。エジプトは、米国の武器輸出の中で世界第3位。フランスやドイ

ツなどは今回の事態に慌てて武器輸出を停止した。また英国では、リビアのデモ隊弾圧に使われたゴム弾や催涙弾などの武器を輸出していたことに批判が高まっている。中東は軍需産業にとって、金融危機後の最大のマーケットになっているのだ。

日本も他人事ではいられない。昨年末の防衛大綱改定において、民主党政権はこうした欧米諸国との武器の国際共同開発に舵を切る寸前まで行った。その流れは変わっていない。

また、日本が米国の戦略に乗る形で行ってきたエジプトなどへの経済援助(ODAなど)の問題性も、しっかりと検証されるべきだろう。

チュニジアやエジプトの事態は、民営化と債務漬けというIMF・世界銀行主導の「構造調整」政策押し付けの破綻をも意味している。しかし、政権を倒した民衆による経済・政治のオルタナティブの模索は困難な道のりが予想される。それは、TPPに前のめり「小泉化」する菅政権下の日本における課題と通底している。さらに、イスラエルのガザ封鎖に加担してきたエジプトの政策の行方など、パレスチナ問題への影響も注目点だ。

歴史の大きな転換点に立っていることは間違いない。遠くて近い激動を注視しながら、同時代の課題を共有し、具体的な連帯を探っていきたい。

[2月26日]

(杉原浩司／核とミサイル防衛にNO！キャンペーン)

短期だが集中激化した日出生台演習場での8回目の米軍演習

大分県の日出生台演習場では、8回目となる米海兵隊の移転訓練が1月30日から2月19日までの3週間実施された。うち、実弾射撃訓練は2月7日から5日間、155ミリりゅう弾砲と小火器(小銃、機関銃)の訓練がおこなわれた。

私たち、米軍演習に反対する住民たちで構成するローカルネット大分・日出生台は、今年もこの米軍演習の期間中、演習場を見下ろす高台の畑に監視小屋を設置。砲撃数のカウントなどの監視行動をおこなった。

今年の総砲撃数は、155ミリりゅう弾砲が490発、小火器は、実弾演習最終日の2月11日、約70分間にわたって、ほぼ切れ目なく激しい連射が行われた。

期間こそ5日間と今年は短かったものの(例年は8～10日間)、その短期間に集中的な激しい砲撃が実施され、結果としては、日出生台でのこれまでの8回の演習の中で、一日平均砲撃数が最も多い訓練となった。

特に、初日、2月7日の夜には、夜間砲撃として過去最多の54発を記録。さらに、2日目の8日には1日の砲撃数の過去最多となる172発もの激しい訓練。4日目の夜には155ミリりゅう弾砲の11連射という、かつてない激しい訓練であった。

また、今年の訓練では、砲弾の着弾時の音、衝撃、振動が例年より格段に大きく、監視をしていた私たちのユニットハウ

ス全体が振動で揺れるほどの衝撃で、地元自治体や自衛隊にも多数の苦情や問い合わせが寄せられた。

夜間訓練は、再三地元から自粛の要請がなされていたものだったが、その夜間に、むしろ集中的に砲撃、連射を実施したのは、日出生台での米軍訓練も8回目となって、もはや住民配慮よりも米軍訓練を優先する姿勢をむき出しに始めたということなのだろう。

私たちは、実弾演習の初日、2日目と過去最多の砲撃を記録したことに対して、そのそれぞれの翌日と、すべての実弾演習が終了した翌日の2月12日、米軍指揮官リカルド・ミアガニー中佐に対して抗議文を出した。1回の演習期間中に3回も抗議文を出すのも初めてのこと。

このような訓練のなし崩し的拡大につれて、米軍訓練の情報が年々出なくなっている。この米軍演習が始まった当初、情報が出ないのは、弾薬輸送の日程だけであったが、その後、米兵の集団外出日程、米軍車両と155ミリりゅう弾砲の陸揚げ日程も非開示となった。米軍部隊の到着、撤収日程はかろうじて、その直前に出されはしたもの、他の4ヶ所の本土移転地ではこれもすでに非開示とされている。米軍訓練は拡大しつつあり、その実態はどんどん見えなくされつつある。

(浦田隆次／大分県由布市湯布院町)

◆ 憲法を
読む ◆

『画家たちの「戦争」』『「戦争」が生んだ絵、奪った絵』

(とんぼの本 新潮社／1500円、2000円+税)

今回は「読む」に「見る」を加えて選んでみた。前のほうは2010年7月に、後者は2011年11月に同じ新潮社のヴィジュアルブック「とんぼの本」として出たもの。いずれもカギカッコつきの「戦争」をテーマにしている。すでに画家として名をなしていたものから、修行中の画学生まで、いずれも「戦争」にたいせつな時を絡めとられた人たちが残した足跡だ。

あの国の「総力」を尽くした戦争で、どういう分野の者も青春を、壮年の熟成期をお国のために「動員」されなかった者はなく、命まで奪われていったのだった。武器の消耗戦ではない。命の消耗戦だったから、戦地へ戦地へと青年壮年は運ばれた。

辛うじて生き延びることができたものが著した「戦争文学」を私たちは比較的容易に入手できて、戦争を、戦場を、収容所を少しずつ知ってきた。字ではなく、絵を描く人たちも自分たちの方法で私たちにメッセージを発していたのだ。私もいくつかは所蔵しているが、画集は重く、高価だったりする。展覧会も観るようになっているが、限られた地で、会期も短い。(無言館は常設)

ここに紹介する2点には網羅とはとうてい言えないが(さまたまな事情の結果であろうが、ぜひここにいて欲しい人の不参加がある)、相当数の画家の「戦争」に関わられた足跡が紹介されている。写真と違って、絵には画家の「眼」とおとした見た目以上のメッセージが描かれていて、哀しみも酷さ

戦争画

も直截に伝わってくる。フジタの『アッツ島玉砕』、小早川秋声の『国への楯』、香月泰男の『朕』など、まだ見たことがない、という人に是が非、見て欲しいと思う。画学生関口清が宮古島の野戦病院で餓死する十日まえにスケッチ帖に遺した『8月9日』も見て欲しい。

画家たちが体験したこと、感じたこと、伝えたかったことは、「戦争」で死んでいった人、傷ついた人、みな目の裏に焼き付いた光景だったろう。文字で、絵筆で表現できなかったたくさんの戦争の犠牲者、薔のまに死んでいった子どもたち、そしてこの絵の向こうにいる侵略された国々の人たちの無念さを忘れないでいきたい。

とんぼの本はヴィジュアル系ではあるが、画集そのものではない。作品と作者、背景について解説がある。神坂次郎、福富太郎、野見山暁治、久保島誠一郎などが参加している。解説には首を傾げる部分もあるが、個々の画家が「動員」された状況にも大きな違いがあり、教えられることも多い。この手にとりやすい2冊を入門、手がかりとして彼らが伝えたかった「戦争」の姿を、無念さを知ってほしい。

私たちは「憲法九条」により、あからさまに戦争に巻き込まれないで、自分の人生を歩むことができる60年間を過ごすことができた。戦争が目前にない今、この2書にあることは昔のことと思われるかもしれない。しかし、学校で先生たちは「信条の自由」を奪われている。このことを重大なことと思う。

(梶川凉子／事務局)

反改憲ニュースクリップ

2011年2月7日～2月25日

「海兵隊は抑止力」は嘘だった

【2月7日】〈北方領土〉前原外相は鳩山由紀夫前首相が講演で、北方領土の2島返還論に言及したことについて「鳩山氏個人の考え方で、政府の考え方ではまったくない。元首相が日本政府の考え方と異なる考え方を、個人的意見であれ、言うのは控えていただきたい」と批判した。鳩山は北海道根室市で講演し、「4島を同時に返せというアプローチであれば、今のような現実の中で未来永劫平行線のままだ。歯舞群島、色丹にプラスアルファという考え方で、プラスアルファの解釈に知恵が必要」と述べた。

【2月8日】〈普天間〉基地所在市町村長らでつくる県軍用地転用促進・基地問題協議会（軍転協）会長の仲井真弘多知事と稲嶺進名護市長らが岡田克也民主党幹事長を訪ね、昨年5月の日米共同声明の見直しと米軍普天間飛行場の県外移設などを文書で要請した。軍転協として県外移設要請は初。菅直人首相や防衛、外務の両大臣にも要請する。**〈都知事選〉**自民党の石原幹事長は東京都知事選について、父の石原慎太郎知事に対し、党本部として4選出馬を要請する方針を明らかにした。**〈米世論は「撤退」〉**米世論調査会社ラスムセンは米国有権者の48%が在日米軍を撤退させるべきだと考えているという調査結果を公表した。多額の財政赤字が米国にとって最大の危機という考えが背景にあり、軍事費削減の観点から在日米軍撤退を求める世論が高まっている格好。政党別は民主党支持層は撤退が過半数、共和党支持層は残留が過半数だった。草の根保守派運動「ティーパーティー（茶会）」系は撤退と残留がほぼ同数となり、意見が分かれている。

【2月11日】〈エジプト革命〉エジプトのスレイマン副大統領は、ムバラク大統領が辞任し、大統領権限を軍に委譲したと発表した。同副大統領は国営テレビで声明を発表し「ムバラク大統領が辞任することを決定した」と述べた。また「国が困難な状況にあることを踏まえ」大統領は軍最高評議会に権限を委譲したと語った。大統領の退陣表明を受け、タハリール広場に集まった民衆からは歓喜の声が上がリ、涙を流す人の姿も多く見られた。**〈世論調査〉**共同通信社の世論調査によると、菅内閣の支持率は19.9%と先月中旬の前回調査から12ポイント下落し、発足後最低となった。20%を割り込んだのは鳩山内閣が退陣直前に記録した19.1%以来。

【2月12日】〈方便〉鳩山由紀夫前首相は琉球新報などとのインタビューに応じ、米軍普天間飛行場の移設交渉の全容を初めて語った。「県外移設」に具体的な見通しがなかったことを認めた。「県外」断念の理由とした在沖米海兵隊の「抑止力」については「辺野古しか残らなくなった時に理屈付けしなければならず、『抑止力』という言葉を使った。方便といわれ

ば方便だった」と述べ、「県内」回帰ありきの「後付け」の説明だったことを明らかにした。海兵隊の抑止力については「一朝有事のときに米国人を救出する役割だから、存在自体が直接、戦争の抑止、攻撃の抑止になるわけではない。全体として4軍そろっていることが必要で、全て関連している中での抑止力となる」と説明。米側とは「県外移設」に向けた具体的交渉はなく、「最後はオバマ米大統領との間でやるような話だったと今、後悔している」と述べた。「県外」困難視の閣僚や辺野古案支持の官僚を最後まで統率できなかったことを力量不足と振り返った。

【2月14日】〈米軍再編〉米国防総省は2012会計年度予算教書の国防関連予算で、在沖縄海兵隊のグアム移転事業費を1億5000万ドル（約130億円）計上した。前会計年度から約63%減で、同省は「複雑な政策と建設計画問題」を考慮していると指摘。国防総省高官は同日、「予算削減はグアム移転に背を向けたわけではなく、今後必要であれば計上する」と指摘。

【2月17日】〈民主分裂〉民主党の小沢一郎元代表に近い同党の比例選出衆院議員16人が岡田幹事長宛てに、衆院の同党会派からの離脱願を提出したことで、同党は事実上の分裂状態に陥った。これに関連し、元代表に近い原口一博前総務相は「政権交代の原点に回帰しようとするグループ」を「民主党A」、首相を支える勢力を「民主党B」と分けた上で『「民主党A」の力を糾合したい。我々と志を同じくするものは（他党を含めて）力を合わせていく」と訴え、「分党」を提唱した。

〈都知事選〉石原慎太郎東京都知事が都知事選に出馬しない意向を固めたことが分かった。知事の長男で自民党の石原伸晃幹事長が、不出馬の意向を有力支援者らに伝えた。

【2月22日】〈バーレーン〉ペルシャ湾の島国バーレーンの首都マナマ中心部でイスラム教シーア派系最大野党「ウェファク」の支持者らが「王制打倒」などを訴えてデモ行進した。参加者は約1万人に上るとみられ、同国で14日に反政府デモが始まって以来、最大規模となった。警察や軍などがデモを阻止する動きはこれまでのところない。ハマド国王は22日までに、政治活動などを理由に拘束された収監者を釈放する恩赦を出した。対象者の詳細は不明だが、反政府派を懐柔する動きも始まった。参加者は「国王は即刻退陣すべきだ。私たちの将来や自由のために戦い続けるつもりだ」と氣勢を上げた。

【2月24日】〈リビア〉各国人権団体の連合体、国際人権連盟はリビアでの反政府デモ開始以来、治安部隊の弾圧などによる死者は少なくとも640人に達したと発表した。また、フランス週刊誌ルポワンは同日、リビアから戻ったフランス人医師の話として、北東部の主要都市ベンガジだけで死者は2千人を超えるとの推計を報じた。

【2月25日】〈取り調べ可視化〉大阪地検特捜部の証拠改ざん・犯人隠蔽事件を受け、法相が設置した「検察の在り方検討会議」（座長・千葉景子元法相、委員14人）が法務省で開かれた。最高検が23日に公表した、特捜部の取り調べの一部を録音・録画する試行方針に「再発防止に効果があるのか」などと批判が相次いだ。

私も一言 126

渡辺義治 (劇団・IMAGINE21)

光を与えてくれた「南京大虐殺」のテーマ
—私達の家族が犯した戦争の加害の罪と向き合って—

「地獄のDECEMBER—哀しみの南京—」この舞台を始めてから六年目に入る。

海外(南京・南京・NY)を含めて76カ所、81ステージとなった。1万8千人の方々が観て下さった。観る方々は、暗いし、重いし、気がならない…と、断られることはめずらしくない。けれど、このテーマは私達夫婦にとって「光」となってくれたのだ。

実は、私の亡き父は、関東軍中尉・C級戦犯で、戦後、母への暴力が絶えず、幼い私の魂は縮み上がり、幸せになれない家庭なのだという意識から自己肯定感を持てず、誰といても(学生運動の時も)孤独でいる方が楽で、妻と結婚してからも、この溝は深く、妻はいつもイラついて、それに堪えられぬ私は、父と同じ…彼女に手を上げた。

ところが、この舞台を創る中で、妻の亡き父が、戦中、戦時成金の御用商人で、「陸軍目黒輜重連隊」に兵士の日用雑貨を納品していたその連隊が、南京に出兵していたことがわかった。妻は初めて、自分の父親の商売の加害の罪を知った。「人にやらせて金だけ入る」その罪を知った。私の孤独感を妻は身をもって理解してくれるようになった…。私達はやっと、深い哀しみを共有しあえた…。妻のイライラもなくなり、いたわりあえる夫婦の道がやっと開けた。私も手を上げることがなくなった。

南京大虐殺。中国侵略の加害の罪。この加害の罪をみることは暗く重いものでは決してない。私達二人にとって、「光」であった。「明らかにする」それが「明るい」事なのだ。

集会・行動情報 3/5 ~ 3/19

▶ 3/5 (土) 沖縄・一坪反戦地主会関東ブロック総会記念講演——日本政府の圧力をはねのけ、辺野古基地建設許さず

◆ 仲村善幸 (沖縄県名護市議会議員・ヘリ基地反対協事務局長)
◆ 19:00~◆ 中野区立商工会館3階大会議室 ◆ 500円 ◆ 主催: 沖縄・一坪反戦地主会関東ブロック (090-3910-4140)

■ 新校舎建設支援 新井英一コンサート (p2)

■ 君はなぜ戦争に行った?——イラク戦争帰還兵の沖縄へ上映会 ◆ 16:00~◆ 聖マルコ教会 (京王線分倍河原駅から徒歩5分) ◆ 1000円 ◆ 主催: イラク平和テレビ局 in Japan を三多摩地域に広げる会 (090-7270-2405)

■ 国際婦人デー3・5東京集会——壊憲阻止! 平和・共存・労働権を闘い取り未来を切り拓こう ◆ 現場からの報告: JAL客乗不当配転撤回原告・三一書房不当解雇原告・朝鮮学校への無償化を求める闘い ◆ 13:00~◆ 文京区男女平等センターにて (大江戸線・地下鉄丸の内線「本郷三丁目」下車5分) ◆ 1000円 ◆ 主催: 国際婦人デー3・5東京集会実行委員会・HOWS (03-5804-1656)

■ レイバーネット日本2011総会&イベント「私たちのメディアをどう育てるか」 ◆ 活動報告とディスカッション ◆ 18:00~◆ 東京しごとセンターセミナー室 (JR飯田橋駅東口7分) ◆ 会員無料 (非会員500円) ◆ 主催: レイバーネット事務局 (03-3530-8588)

▶ 3/6 (日) 知らないふりはできない! 「沖縄とガザ」2011年国際婦人デー行動ふくおか ◆ 韓国非正規労働者の運動を担っている女性を招き交流・集会後デモ ◆ 13:00~◆ 福岡市人権啓発センター (ココロン) 研修室 (博多リバレインオフィス10階) ◆ 主催: 2011年国際婦人デー行動ふくおか実行委員会 (080-3942-0954)

▶ 3/11 (金) 自衛隊によらない島の活性化を求めて与那国への自衛隊配備反対集会 ◆ 崎原正吉 (与那国改革会議・議長) 山城博治 (沖縄平和運動センター・事務局長) ◆ 19:00~◆ 全水道会館・4F大会議室 ◆ 500円 ◆ 主催: 沖縄・一坪反戦

地主会関東ブロック (090-3910-4140)

■ 李泳采さんと語るつどい—韓流から考える「植民地支配」と日韓のあり方 ◆ 李泳采 (恵泉女子大学教員) 「韓流から考える「植民地支配」と日韓のあり方」 ◆ 18:30~◆ エポック10・研修室2 (豊島区男女平等推進センター: 豊島区勤労福祉会館4階 消防署隣JR池袋駅メトロポリタン口下車7分) ◆ 1000円 ◆ 主催: 詩と朗読「たきび」の会

▶ 3/12 (土) 神奈川証言集会「日本軍は、中国大陸でどんな、残虐行為をして来たのか!」 ◆ 坂倉清 (中国帰還者連絡会会員) 高柳美知子 (「人間と性」教育研究所所長) 姫田光義 (中央大学名誉教授・撫順の奇蹟を受け継ぐ会代表) ◆ 13:00~◆ かながわ県民センター305 (JR横浜駅徒歩5分) ◆ 500円 ◆ 主催: 撫順の奇蹟を受け継ぐ会神奈川支部 (046-871-4263)

▶ 3/14 (月) ノンフィクション・ステージ「地獄のDECEMBER—哀しみの南京— (二人芝居)」 ◆ 作・演出・出演: IMAGINE21 (渡辺義治・横井量子) ◆ 14:30~、18:45~ (2回) ◆ 会場: 新宿タイニイ・アリス (地下鉄新宿3丁目駅) ◆ 前売: 大人3800円 ◆ 問い合わせ: (080-5506-2295) (※「私も一言」)

▶ 3/15 (火) イラク戦争を考える連続講座第62回「西谷修さんに聞く アメリカとは何か」 ◆ 西谷修 (東京外国語大学教授) ◆ 19:00~◆ 世田谷区立烏山区民センター第4会議室 (京王線・千歳烏山駅下車すぐ) ◆ 800円 ◆ 主催: 今とこれからを考える一滴の会 (03-5313-1525)

▶ 3/19 (土) アラブ「民衆革命」とパレスチナの今後——パレスチナ訪問報告を聞いて考える ◆ 田浪亜央江 (ミードン〈パレスチナ・対話のための広場〉) ◆ 18:00 開場 ◆ 文京区民センター2B会議室 (地下鉄都営三田線・大江戸線春日駅すぐ) ◆ 500円 ◆ 主催: 聞いて考える会 ◆ 連絡先: midan.filastine@gmail.com

■ WORLD PEACE NOW 3・19 (p2)